

岩手県防災会議 地震・津波被害想定調査検討部会 第6回 議事概要

日時：2022年8月2日（火）10：00～12：00

場所：県庁4階4-1・4-2 特別会議室（&WEB）

1. 報告書最終案の確認について【資料1・2・3】

- ・震度と浸水深の重ね合わせ図は具体的にどのページに示しているのか。
→303ページと304ページの間に入れ込む予定である。
- ・表3.1-20のみを見ると922名が亡くなるというインパクトを受ける。死者ゼロを目指すという説明をこの表の後でも記載しておいてほしい。p315についても同様である。
→p48～p50を313ページに移行し、減災効果とつながるようにする予定である。
- ・タイムラインの字が小さくて見えにくい。
→見えやすいように修正する。
- ・資料2のp1の最終行で、「検討していく」という柔らかい表現になっているので、一体となり取り組んでいくのような前向きな表現にしてほしい。
→表現については検討し前向きな表現とする。
- ・資料1のp4の表の減災効果の欄に、「人命救助のためのインフラ整備」等の文言を入れてほしい。
→表記は異なるかもしれないが、趣旨に沿った形で修正するよう、検討する。
- ・資料1のp44について、国の想定と県の想定との津波到達時間の差について、市民への伝え方に苦慮している。早期避難は減災に効果的なので、何かしらの説明がほしい。
→説明を追加する。
- ・資料1のp6の図面が分かりづらい。4月の部会の資料1では、これにケース1・2の破壊開始地点があった。そちらの方が良かったので、差し替える等したほうが見やすいのではと思う。
→破壊開始点を追加し分かりやすく修正する。
- ・資料2のp4の修正箇所⑥について、「県と市町村が一体となって」とあるが、地域によっては、自主防災組織や町内会が防災の主体となっているところもあるので、県と市町村だけではないことがわかるような記載としてほしい。
- ・資料1のp311について、早く走れと言うだけでは防災にならない。避難速度だけではなく避難距離を縮める旨を公助のところに書いておくべきではないか。
→県と市町村で進めていく減災対策の検討の中で、具体的な内容を検討したい。
- ・指定の避難場所以外に避難ビルを入れないと、死者ゼロは難しい。避難タワーは費用的に難しい。避難場所を見直すことと避難ビルを指定することは入れておいた方がよい。

- ・国が設定した避難速度は遅く、実際には、健常者なら普通に逃げれば助かる可能性はある。災害弱者は具体策を検討する必要がある、ということに触れておいた方がいい。
 - ・対策の主体として、県と市町村だけでなく、住民も入れた方がいい。
 - ・他市町村も含めた広域避難について、市町村間の連携の仕組み作りを県にバックアップしてほしい。そういった取組も取り上げてほしい。
- この報告書は県と市町村が一体となって減災対策に取り組むための基礎資料であり、県と市町村で、検討の場を設けることが重要である。議題に取り上げて対策を練っていききたい。
- ・未来に向けた備えの一步を踏み出す資料になったと思う。
 - ・減災対策について、今後、県と市町村とで一緒に取り組んでいく姿勢を示したことは意味があると思う。取組を継続する様子を委員として今後見守っていききたい。
 - ・今回想定するものは通常の災害ではなく最大限の危機的なものであるため、通常のマニュアルでは想定を超えるかもしれない。今回の想定は非常に厳しいものであるという心構えで今後取り組んでほしい。

2. 公表までのスケジュールについて【資料 4】

- ・ショッキングな数値が出てくるので、いかにかじ取りをするか。死者をゼロにする対策を具体的にこれから詰めていく、ということはオープンにしても良いと思う。(斎藤委員)
- ・報道機関に、どうやって正しい情報を分かりやすく報道してもらうか。詳しく中身を理解してもらう必要がある。
- ・対策ができるまで時間がかかると思う。それまでどうしたらいいのかという声上がるだろう。発災時にはとにかくすぐに避難してほしいというメッセージを出しておくことは必要である。
- ・新潟県では、市町村に説明した後にマスコミに対して勉強会を開いて説明を行った。岩手県でも説明会を実施して、市町村にフィードバックをするのが良いと思う。(田村委員)
- ・最悪想定の子測に対して死者ゼロにすべく取り組んでいくという点については、ぶれないようにしてほしい。

以上